



北米ホーリネス教団
オレンジ郡
キリスト教会
「週報」

2015年の努力目標

1. 朝の15分の祈りを大切に。
2. 聖書日課に励もう
3. 祈り会に参加しよう
4. 聖書研究・家庭集会への参加
5. 礼拝欠席の時は牧師に連絡を。

◎集会案内◎

日曜 礼拝 : 9:30~10:45am
 コヒーアワ : 日曜日 10:45~11:15am
 聖書の学び : 日曜日 11:15~12pm
 みふみ会 : 水曜日 10am
 定例祈祷会 : 水曜日 7:30pm
 早天祈祷会 : 土曜日 7am
 家庭集会 : 各地区に2箇所
 牧 師 : 杉村 幸 (日本語部)
 : 益田デーロ (英語部)
 電 話 : (714) 827-6244 (教会)
 : (714) 527-1456 (牧師館)
 E-Mail : sugimurai950@gmail.com
 教会ホームページ : www.occc.org
 教会所在地 : 4872 Bishop St.
 Cypress, CA 90630



◎石叫 ■ 「日本伝道旅行」②

しかし、まもなくすると、「よ〜く来た!」という田舎なまりの音が、後ろから聞こえるではないか(彼の津軽なまりはどういう訳か癒されていない、と人事のように思った)。振り向くと、そこには奥様の留美子先生の肩を借りて、こぼれるような笑顔で立っている先生が居るではないか。彼は五年ほど前に当地に来てくれた時と変わらずに歩ける、それを知ったことが何よりも嬉しかった。彼の牧会する大島ホーリネス教会で泊まることもできたのだが、二階の客室は日中は暑く、階段も急なので、教会近くの簡易ホテルにチェックインした。彼と二人、時の過ぎるのも忘れてこれまでのことを話し合った。パウロは彼の第三伝道旅行の途次、トロアスで、「しきりに人々と話し合い、夜中まで語りつづけた」(使徒行伝二〇・7)とあるが、まさにそのような至福の時であった。

翌日は奄美のすぐ南にある加計呂麻(かけるま)島に泊することにした。そこは「トラさん」の最終ロケ地であり、観光地化されていない島だから、ゆっくり寛げるだろうというので、彼がプランしてくれた。そのためには、どこへ行くにもローカルのバスを利用しなければならぬが、そのバスの冷房が効きすぎていた。それでやられてしまった。風邪を引き、頭痛とお腹を壊してしまい、旅を楽しむどころではなくなっていた。でも、彼の配慮が嬉しかった。

三日のサンデーは大島教会でご利用だ。南国ということもあるのだろう、三十人近い礼拝出席者の反応がとても良く話しやすい。頭痛も忘れて、「主の名を呼べ」と題して語った。奄美に居る間、歩いて五分も掛からない所に海浜があるので、毎朝、そこを散策しては、それまでの過ぎ越し方、行く末について思いを馳せていた。行き交う多くの人が快く挨拶してくれる。とっても人懐っこい。

次の目的地は新川誠先生の待つ熊本だ。夜の九時に奄美を出、フェリーで鹿児島港に着いたのは翌朝八時であった。そのためには屋久島と現在、火山噴火で揺れている口永良部島の十二キロの間を通る。その時、もちろん、噴火が起るとは思ってもみないことだった。まさか僕のせいではないとは思うのだが…。

僕は学生時代の一九七〇年に一度、九州一周したことがある。ちょうど大阪で万国博覧会があり、その旅のついでに足を伸ばしたという訳だ。港から見る岬々とした桜島は噴煙こそ上げていなかったが、屹立して市内を見下ろしているかのようだ。かつて、この鹿児島から幾人もの維新に参画した元勳たちが出た。「わが胸の燃える想いに比ぶれば煙は薄し桜島山」と彼らは詠った。

「オレンジ郡キリスト教会の歩み」
 オレンジ郡キリスト教会は1977年に発足し、東洋宣教会・北米ホーリネス教団に所属するプロテスタント教会の一つです。北米ホーリネス教団は1921年に創立され、現在は日英両語合わせますと2000名を越える会員になります。
 私たちの教会は18世紀に、英国で始まったジョンウエスレーによるメソジスト教会の流れを汲みます。そして他のプロテスタント教会同様、3世紀以来告白され続けてきた使徒信条を、私達の信仰告白と致します。

